

正式に発表されていない。

本種は *Sinarisaema* 節に属するもので、球茎の内部および外部が淡緑色であること、小葉および仏炎苞の先が長く糸状に伸びて垂下すること、花序の付属体が太く短く、しばしば有柄となり先端部に通常著しい（時にはやや不明な）しわ状の凹凸があることなどの特徴がある (Figs. 1, 2, 3)。本種のうち、大武山で採集された植物はいずれも偽茎および花柄が著しく短くて斑がなく、また仏炎苞の筒部が太く短かいという点でよくまとまっており、他地域のものとは異なっている。そこでこれを変種と認め *var. brevipedunculatum* J. Murata と命名した。

*A. taiwanense* は花後に花柄が下向きに曲るという特徴をもつ点で、アジア大陸の東南部および台湾に広く分布する *A. consanguineum* や、東部ヒマラヤおよび隣接地域に分布する *A. echinatum*、台湾産の *A. formosanum* およびフィリピン産の *A. polyphyllum* と共通で、これらと共に近縁な一群をなすものと考えられる。

□ New York Botanical Garden: Index to specimens filed in the New York Botanical Garden vascular plant type herbarium 587 pp. 1985. Meckler Pub., Westport. 1982年に製作頒布されたニューヨーク植物園のタイプ標本マイクロフィッシュの索引で、P.K. Holmgren ほか6人の編集になる。植物名は科ごとにまとめられ、その中は属名のABC順、属内は地域別にまとめられている。この地域別は不便で、全部ABC順の方がよかった。それぞれの学名には著者名、原産地、フィッシュ番号が示されている。科の配列は同植物園の分類順で、その索引は巻頭1〜8頁にある。本書はさきのマイクロフィッシュ購入先に配布されている。この企画は1981年にはじまり、73,000の植物名を取捨検討のうえ5年を費やして出版に至っているが、その間の労働量が序文に示されていて興味深い。1982年7月に1人のパートタイマーがワープロによる入力作業にかかり、9月には2人のスタッフがフィッシュナンバーの記入にかかったが、手にあまったため11月にはさらに2人のスタッフが動員された。それでも間に合わず、さらに4人のフルタイムを4ヶ月やとった。7人の編集者の費やした時間は5781時間(165週)である。記録作業のための労働時間はわかっていないが、ある1人は2年にわたって週20時間働き、他の1人は10ヶ月間週15時間働いたことがのべられている。われわれの頭では週20時間という労働が記録に値するかどうかかわからないが、彼等にとって非常なアルバイトであったのだろう。わが国ではこのような作業は研究の合間にやることで、「こんなに働いた」と公表することはむしろはしたないことといわれかねない。しかし、こういう仕事は思いのほか手間も暇も、当然金もかかるということは、もっと広く認識されるべきだろう。

(金井弘夫)